

# 彦根インター・場外馬券売場

## 設置同意のチラシ配布

推進団体

市内原町の彦根インター近くにJRA(日本中央競馬会)の場外馬券売場を誘致する。誘致の請願が昨年十二月の彦根市議会に提出された。市議会が二十九日に開催されるのを前に、設置推進を求める地元団体が二十三日、市内ほぼ全域の朝刊各紙に「JRA彦根ウイソズ設置同意へ」彦根市民の皆様のご理解を」と題したチラシを折り込んだ。

チラシは同町の「原地域開発事業推進のための協議会」(代表＝原義和・原町自治会長)名でA4判の大きさ。チラシでは「彦根インター周辺整備事業の一環、引いては彦根市経済発展の一助としてJRAを誘致」温泉設備を備えた複合ビル施設等の設置計画を推進実現し、その中に彦根ウイソズ誘致を成功させて、まち起こしを完成させる所存」として理解を求め、「周辺住民の皆様への確約(交通安全・風紀対策など四項目)と「設置のメリット」(市の健康福祉向上・交付金環

境整備費交付による市財政への貢献など八項目)を挙げている。  
 (本紙では十三日付に「場外馬券売場誘致実現を願う」投書や、年明けから市財政危機回避への収収確保策と企業誘致策などについての投書複数を掲載してきた)



### 投票 場外馬券売場、石和の実態教訓に

最近、彦根市内において場外馬券売場を誘致せんがための宣伝が活発に行われている。年末の市議会では公政会の田島茂洋議員が「ウイソズ石和を視察したところ青少年問題についても問題ない、環境整備費が毎年四千万円から五千万円弱交付される。誘致すれば彦根市に貢献できる」と述べていた。

去る一月十四日、原町で前石和町議(ウイソズ石和がある旧町現笛吹市)の講演会があったので参加した。石和の場合は四千万円の環境整備費が交付されるには、市税から一千万円を追加上して五千万円の事業を実施しなければならぬ。

たが、今回は誘致を危惧する立場の投書を別掲します。市議会委員会 29日に再審査 馬券売場設置請願継続 昨年十二月の彦根市議会に提出された「場外馬券売場誘致実現を願う」設置同意の請願書について、市議会産業建設常任委員会は二十九日午後一時半から会議を開催して審議する。

さらに、この間に倒産した旅館、ホテルが払っていた固定資産税、法人税、従業員の市民税などを考えると莫大な減収となるであろう。

地元では、温泉客減少の原因は、馬券場のために土曜、日曜は交通が渋滞し観光バスが入れない、馬券場ができイメージが悪い等という噂が広がった為だと指摘する声が多い。青少年の問題でも、馬券場内では子供連れが多く、小さい頃からギャンブルに馴染むせいか、子供の机の中にまで馬券を見かけるといふ。

新聞報道によると、地元の笛吹市立石和中学は学級崩壊、喫煙、備品破壊と荒れに荒れ、「学校中にタバコの吸殻が落ちていた」状態であったが、現在の三年生の努力で生まれ変わり、最近になって落ち着きを取り戻したという。大人が子供を連れてギャンブルに興じているうちに学校は荒れ、町は寂れてしまったというのが石和の実態だと言ふ。

当時、自民党員で石和町議会議長や商工会長をして「いた若杉さんと言ふ人は「場外馬券場が出来れば人が来て商店が繁盛するからいいだろう」という事で誘致に協力したが、五年後には「騙された」と気がつき、八十五歳で亡くなるまで全国の馬券場反対運動を激励して回ったそう。」「ギャンブルで町が繁栄することはない」「出来てしまつてからは遅い」これが石和の教訓であり、故若杉さんの遺言である。(一市民64歳)

たが、今回は誘致を危惧する立場の投書を別掲します。市議会委員会 29日に再審査 馬券売場設置請願継続 昨年十二月の彦根市議会に提出された「場外馬券売場誘致実現を願う」設置同意の請願書について、市議会産業建設常任委員会は二十九日午後一時半から会議を開催して審議する。